

平成30年度 第1回総合教育会議議事概要

平成30年5月31日（木）に平成30年度 第1回総合教育会議が開催され、「子どもたち自身が未来を切り拓く力の育成について」をテーマに意見交換が行われました。

第1回総合教育会議の議事概要は別添のとおりです。

平成30年度 第1回総合教育会議 議事概要

日時:平成30年5月31日(木)

午後1時30分～午後2時30分

場所:ハピネスふくちやま会議室2

■出席者(敬称略)

教育長 端野 学

教育委員

倉橋 徳彦、塩見 佳扶子、和田 大顕、大槻 豊子

市長 大橋 一夫

事務局

市長公室理事、経営戦略課長

■市長あいさつ

- ・平成27年5月に新たな教育委員会制度のもと、福知山市でも総合教育会議が立ち上げられた。
- ・子育て・教育の充実は、新時代の福知山づくりに向けた重要な施策であると位置付け、全ての子どもの将来が家庭の経済的・社会的状況に左右されることなく、自ら将来を選択し自立していけるよう、多様な分野の専門職の配置や学校・児童館など関係機関との連携により、子どもの健やかな育ち・育みを包括的・総合的に支援するよう全力で取り組んでいるところである。
- ・近年ではIT分野での技術革新が進み、子ども自身が未来の社会に取り残されることがないように、先を見据えた力の育成を進めることがとても重要ではないかと考えている。
- ・本日の会議では、「子どもたち自身が未来を切り拓く力の育成について」というテーマで、将来の社会を担う人材として、子ども自身が社会を力強く生き抜くための学びについて意見交流を図りたいと思い。

■議事

意見交流 テーマ「子どもたち自身が未来を切り拓く力の育成について」

大橋市長

- ・現代社会はコンピュータを組み込んだ製品があふれ、子どもたちも慣れ親しんでいる。身近なところで言えば家電などであり、他方では囲碁のAIソフトが、世界チャンピオンに勝利するようになった。行政の事務などで言っても、RPA(※1)という形でAIまでは至らないまでも間接事務を自動化するなど、実用段階にきている。
- ・今後の子どもたちが生きていくこれからの社会を見通すことは難しい。しかし、今後さらにこうした技術が進歩していくことは、容易に想像することができる。最終的にどんな社会になるかはわからない中でも、これからの社会に子どもたちが適応できるような教育を施していかなければならない。
- ・こうした中で、今年度より福知山市ではプログラミング教育を推進していく。これはプログラミングのコーディング(※2)技術の習得が目的ではなく、小学校の段階では、身近なところにコンピュータがあり、それを動かす手順を学ぶことで、論理的な思考を育てることが目的の教育である。自分自身が実践することで、コンピュータやAI技術を身近なものとしてとらえることができる。
- ・こうした新しい取り組みを始めると、保護者の皆様も不安を抱かれることがあろうかと思う。しっかりとやっていきたい。
- ・プログラミング教育を進めるにあたり、地元出身の方から、教材の寄付があった。非常にありがたい。
- ・教育とは何かの原点に立ち戻ると、総合性、人間力を養うことが基礎にあり、自分の将来を切り開く力が求められると思う。ベースとして大切にしつつ、プログラミング教育を進めていきたい。人間としてのあり方を養った上で、未来に向かう力を養って、自分自身の自己実現につながると考える。

※1 Robotic Process Automation 単純な間接的業務を自動化するテクノロジー

※2 プログラミング言語を用いて、コンピュータ上で作動するプログラムを作成すること

和田委員

- ・プログラミング教育推進の取り組みは京都府下で初めてであり、これにいち早く取り組むことのできる福知山の子どもは幸せだと思う。
- ・子どもたちの生活はデジタル世代。ICT技術の利用は当たり前となった。人口知能が適切な結論を導き出すと言われる第4次産業革命期において、子どもたちが早い段階でプログラミング的な思考方法を身に付けていくことは非常に大切である。この教育は様々な分野で横断的に行われるということなので、子どもたち自身の将来設計に役立つのではないかと思う。
- ・この教育を通じて、深く学び、対話的に学習でき、達成感が得られるといった成果が期待される。社会に出た後、有効な経験として生きるのではないか。
- ・勉強が苦手、コミュニケーションが苦手、発達障害のある子どもなどもある。プログラミング教育は、こうした子どもにとって強みになるのではないか。
- ・大変有意義な取組だと思う。一方で、疑似体験が増えることから、主体性をなくしてしまう、実体験がなくなるのではといった懸念もあるので、しっかりと取り組んでいかなければならない。

大橋市長

- ・発達障害のある子どもたちにとっても、自分の未来を切り開ききっかけになる。
- ・バーチャルな世界のみに入り込んでしまうと、自分自身を見失うことにもつながる。実際に体験させることを忘れず、学校でプログラミング教育に取り組んでいただけたらと思っている。

倉橋委員

- ・情報化の時代において、自分の興味のある情報を容易に手に入れることができるようになった。一方で、興味は一人一人違い、知識のアンバランス化が強くなってきている。その中で学校は、アンバランスを是正する大切な役割があると思う。
- ・学校はこれからさらに体験を重視させていかなければならない。プログラミング教育を現実的にうまく取り入れたものになるかどうかにかかっていると思う。

大橋市長

- ・今の子どもはすごいスピードで覚える。しかし、のめりこんでしまったときの怖さもある。実体験を通じて、人間のベースを育て、これからの時代を生きていく力を学校で育てていく必要がある。
- ・アンバランスの是正という話があったが、現代は興味の対象となるものが非常に多い。その中でも、基盤となるものを作る教育が大切になってくる。

塩見委員

- ・どんな教育を受けるとしても、小中学校で基礎基盤を築いた上で、こうした先端教育を受け、いろいろなものを見たり聞いたりした知識が、将来の職につながるような子どもになって欲しいというのが親の願い。
- ・AIの発達で将来多くの職業が無くなるという話があるが、子どもたちの将来の選択肢が狭められような、先につながる教育を福知山でできるようお願いしていきたい。

大橋市長

- ・既存の職業が無くなる一方で、多くの新しい職業ができるという話もある。避けて通れない世界があることは事実であり、子どもたちがそれを理解し、自分の力で夢を実現することが大事。プログラミング教育を、子どもたちの自己実現のためのツールとして考えるのがよいと思う。

大槻委員

- ・10年に一度学習指導要領改訂がある。次は2020年であり、本年・来年は移行期間となる。
- ・新要領では言語能力、情報活用能力が学習基盤とされる。この育成のため、各学校は環境整備、学習活動の充実、教材教具の適切な活用をしていかなければならない。今回のプログラミング教育も、その1つだと考えている。その中で、情報モラル、教師のスキルアップを考えていかなければならない。

- OECDによる成人のスキル状況調査によれば、日本の読解力、数的思考力は世界一位である。しかし、ITを活用した問題解決力は10位であった。
- コンピュータは道具であるが、使えなければ能力として評価されない時代になってきた。
- そうした中で、学校教育で何をしなければならぬかと言えば、公教育の中でICTスキルの積み上げが必要である。
- 新学習要領でうたわれている、主体的、対話的で深い学びにも、ICTの基本的な操作、スキルは必要になる。しかし、それが全てではなく、課題発見、整理、探求の論理的思考も、日々の教育活動で培い、この両立により子ども自身が切り拓く、未来に生きる力になってくるのではないかと思う。
- 家庭環境はさまざまで、子どもの貧困などに左右されず、公教育の中で平等にICTを学べるのは素晴らしいと思う。一方で、福知山の学校の中でも、タブレットの活用や電子黒板などの利用環境整備に格差がある。全ての学校で平等に情報教育ができる環境ができればありがたい。

大橋市長

- プログラミング的思考は特定の教科で培われるものではなく、学校教育の様々な学びの中でそういった論理的思考が培われていくものであると思う。
- 10年後～20年後は現代よりもさらに進歩しており、必要な力を身に付けておかなければ自己実現ができない社会が来る。
- 民間会社のトップの方の説明を見ている、やはりICT社会の中に社会人として力を身に付けていかなければ、ついていくのが難しいというように受けて取れる。こうした状況の中で、学校に通っている子どもたち全てに、公教育として平等に力を身に付けさせていかなければならない。

■端野教育長あいさつ

- 次期学習指導要領改訂の中では、社会に開かれた教育課程という表現が大きな目玉となる。これからの子どもに必要な力は、学校の中だけでなく、地域、家庭と協力して考えていかなければならない。
- これからの子どもたちに必要な力は、どんな世界になっても対応できる力だと考えている。主体性をもち、対話的コミュニケーション力をもつことが重要である。これは絶対に必要な、「生き抜く力」であり、これからどんな社会になろうと、必要な力となる。
- 文科省より指導の手引き第一版がこの3月に出た。今後プログラミング教育をどう行っていくかはまだ見えていない。その中で、ありがたいことに市の予算付けにより今後市立学校で試行が進められる。第二回の総合教育会議では、できればプログラミング教育の現場を、子どもたちを交えて見て頂ければよいと思っている。
- 人間の知能は、生き抜こうとする中で生まれた産物である。プログラミング教育は不易流行の中での流行の部分と考える。不易と流行を見極めて、学校で指導にあたってほしい。
- プログラミング教育を行うにあたり、不安材料もいくつかある。例えば、授業時間が詰まっている中で、年間に何時間とれるのか、つけたい力をつけるにはどれくらい時間が必要なのか不明である。また、狙いが曖昧で遊びで終わってしまう危険性もある。そのために指導者の育成、研修が課題となる。
- 福知山市教育委員会には教育指導の理念の確立、良い先生を育てる、良い環境を整えるという3つの目標がある。そして、現場に出て、現物と現象を把握し、原因を分析し意思決定するという「4つのゲン」を大切にしている。この場でご紹介する。
- 2020年の学習指導要領の改訂は、さらに10年後の2030年の改訂の基準となっていく。これはその時代に活躍をしていく子どもたちを育てていくための人材育成、成長戦略になる。
- やらねばならないではなく、やろうという意識で、我々も頑張っていきたい。